

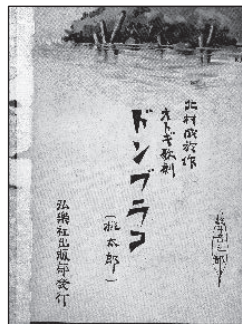
おとぎかげきどんぶらこ ももたろう

## #33 オトギ歌劇ドンブラコ

[桃太郎] 4版

作者：北村季晴（きたむら・すえはる 1872-1931）

刊行：大正9年（1920）



### ♪ 解題

#### ■ 内容

お伽話の「桃太郎」を題材にした、全五場からなる児童向け音楽劇作品。

日本歌劇の先駆けともいえ、児童向けの日本の昔話を扱い、物語を歌詞にしていることや、「開いた開いた」や「通しゃんせ」、文部省唱歌の「霞か雲か」といったわらべ歌や木遣り歌、唱歌等が、アレンジを加えてしばしば用いられ、西洋音階とも接合させている点が特徴的である。

当館所蔵の楽譜は、大正9年（1920）2月に弘楽社より発行のもの。表紙には「聲音之部」とあり、唱歌者の専用として歌部分が抜粋されている。なお、国立国会図書館デジタルコレクションでインターネット公開されている楽譜は、明治45年（1912）1月に共益商社より出版の、伴奏部も含めて収録されているものである。

#### ■ 作者

作者の北村季晴の筆名は成於（なるお）。幼い頃にオルガンを教わり、音楽に興味を持つ。明治20年（1887）に明治学院に入るが、音楽への情熱が高まり、同学院を退学し東京音楽学校（現・東京藝術大学）に入学。明治32年、長野県師範学校教諭となる。在職中には後に長野県歌に指定される「信濃の国」を作曲。明治38年に三越音楽部主任となり、同年、叙事カンタータ「露営の夢」を作詞・作曲。大正6年（1917）には東京音楽学校邦楽調査掛を委

嘱され、日本の古典音楽の保存に貢献した。

### ■ 「宝塚少女歌劇」と『ドンブラコ』

大正2年（1913）に創立され、100年を超える歴史を持つ宝塚歌劇だが、その第一回公演の演目のひとつが、『オトギ歌劇ドンブラコ』であった。

箕面有馬電気軌道（現・阪急電鉄）専務の小林一三は、当時好評だった大阪三越の少年音楽隊に倣い、女子による「宝塚唱歌隊」を創設。同年「宝塚少女歌劇養成会」に改称し、少女によるオペラを行おうとする。そして、乗客増加策として宝塚に作った温泉施設の室内プールが実用にならず、余興場に改装した「パラダイス劇場」にて、大正3年4月に「婚礼博覧会」の余興として宝塚少女歌劇の初公演が行われた。演目は「ドンブラコ」のほか、本居長世の「浮れ達磨」や舞踊などだった。

少女たちが練習を重ね披露した舞台は好評を呼び、以後年4回の公演が行われるようになった。そして、「ドンブラコ」の成功により、宝塚少女歌劇は当面、お伽話や歴史物語を題材とした歌劇の上演方針を続けていく。

### ♪ 参考文献

- ・『逸翁自叙傳 3版』小林一三著 産業経済新聞社 1953 [289. 1/374]
- ・『日本オペラ史[上]: ~1952』増井敬二著 昭和音楽大学オペラ研究所編 水曜社 2003 [766. 1/220/1]
- ・『すみれ花歳月を重ねて: 宝塚歌劇90年史』宝塚歌劇団 2004 [775. 4/15]
- ・『小林一三は宝塚少女歌劇にどのような夢を託したのか』伊井春樹著 ミネルヴァ書房 2017 [775. 4/35]
- ・『日本語オペラの誕生』大西由紀著 森話社 2018 [766. 1/308]